

石垣市缶類の資源化検討委員会議事録

■日時：平成25年8月27日（火）10:00～11:30

■場所：石垣市役所2階 第1会議室

■検討委員会出席者

第一号委員

○川平真章 ○大浜永治 ○米盛勝三 ○前盛均 ○高島忠次
○石垣實勇 ○鹿川克江 ○宮城利 ○前野愛子

欠席者

○我喜屋 隆

第三号委員

○崎山用育（代理 長嶺康茂） ○前盛善治（代理 崎山晃）

■配布資料（1人1部ずつ）

○第1回検討委員会 会次第（1枚を1部）

○報告等資料（報告1～6並びに審議第1号の合計8枚を1部）

■会次第

1、委嘱状交付

2、市長あいさつ

3、議案第1号 正副委員長選出

- ・委員長 川平真章
- ・副委員長 鹿川克江

4、委員長あいさつ

- ・委員長 川平真章

5、委員及び事務局自己紹介

6、報告

- (1) 石垣市における資源化への取り組み
- (2) 最終処分場のごみ搬入量の推移
- (3) 最終処分場の埋立量の推移
- (4) 燃やさないごみのごみ質調査結果
- (5) 飲料缶以外の缶類の種別調査結果
- (6) 飲料缶以外の缶類を資源化した場合の効果

7、審議

- (1) 審議第1号 委員会スケジュール 【原案承認】

8、次回検討委員会日程

【平成25年9月中旬頃：委員長調整】

第1回石垣市缶類の資源化検討委員会

No. 1

○委員長

それでは、会議は、会次第にそって進行してまいります。質疑等の場合は挙手をもってお願いいたします。

委員へお諮りいたします。報告第1号から報告第6号までありますが、まとめて報告を受けた後に質疑に入りたいと思いますが、よろしいですか。

(異議なし)

○委員長

ご異議ないようですので、事務局は報告第1号より随時説明をお願いします。

○事務局（富浜）

それでは、さっそく報告第1号の説明をいたします。

(報告内容説明：報告第1号～報告第6号)

○委員長

ただ今1から6までの報告がございましたけれども、委員の皆さんご質疑があればよろしくをお願いします。

○石垣委員
委員長。

○委員長
はいどうぞ。

○石垣委員

これまでの状況をですね報告を受けますと、実際私たちは初めてこういう会合に臨むわけがございまして、実際どういう状態のごみがですね、この様な問題を取り上げられておられるか。もう一点はやっぱり埋立地、その現地を見ないことにはですねこの数字を出ておられる中でもピンとこないのがありますので、まず現地を見てきてもらうということが一点。あと一点は、その現場に行くことによってですね、その種類、缶類とかですね色々な種類の今報告がありました内容等はですね、現地で見ないことには私たちは各家庭の物しか見てませんので、これを現地で見せてもらうことから始まらないと検討できないんじゃないかな。こういう風に思いますがいかがでしょうか委員長。

○委員長

はいよくわかりました。具体的なごみの缶類というのと、埋立現場の現状どうなっているかというのを各委員で確認すべきなんじゃないかというようなことですが事務局缶類についてなにか。

○事務局（富浜）

現地を最終処分場の現場を見たいということでしょうか。皆さんがご希望であるならばですね、ちょっと日程を調整したうえでぜひ最終処分場、現場の方を確認してもらいたいと考えております。本委員会で諮っていただいて、見たいということになりましたらこちらとしても

○委員長

いやその前に飲料缶以外の缶、どういった缶の種類があるかというような説明があれば

○事務局（富浜）

はい、飲料缶、先ほど報告したんですけど非常に多岐にわたる商品が売られております。スプレー缶等、まあ代表的なスプレー缶でも整髪用のスプレーとかシェイビングのスプレー等のスプレー缶、それと缶、缶詰の缶類ですね、食用品の缶詰の缶類、また蚊取り線香が入っている缶とか、あるいはペンキなどのペンキ缶または食用油などが入っている一斗缶等々ですね。特にスプレー缶については色々な種類整髪剤からですね、色々な缶の種類のスプレーのスプレー缶が販売されております。以上です。

○事務局（課長）

先ほどは説明報告事項の中で説明が早すぎましたので、お手元の資料の報告4-1、4-2をご覧ください。4-1の赤で囲んである部分が缶類です。缶詰缶40kg、5.7%、菓子缶ミルク缶など4.5kg、食用油の缶一斗缶含む3.5%、ペンキ缶それからスプレー缶が11.5kg、1.6%。その他の缶類がやっぱり11.0kg。4-2で事業系になりますけれども、こちらの方では若干内容が違っておりまして事業所ですので缶類全体で21%。先ほど家庭系では11.8%でしたけれども構成が逆になりまして缶の方が多くなります。事業系では缶詰缶などが40kg、7.8%。菓子缶ミルク缶などがわずかです2.0kg。食用油缶これが増えまして50kg、9.8%。ペンキ類が6kg。スプレー缶が8kg。その他の缶類という風に缶詰類は成っております。それからもう1つの課題の混入ごみ、混入してる資源ごみがこの黄色で囲ってあるんです。4-1では、混入金属類が90kg。混入資源ごみ類これびん類ですね。混入資源ごみ類の中のさらに容器包装包装プラ類、わずかですけれども飲料缶も混入しております。家庭系では缶類と混入資源類たして34%になります。事業系ですと構成の割合は変わってきますけれども同じく缶類と混入資源ごみ合わせますと約34%。したがって、家庭系でも事業系でも34%。3分の1は缶類もしくは混入資源類という分析になります。

○高島委員

これ、年間ですかひと月ですか。

○事務局（富浜）

ごみ質調査を事業許可業者の事業系を一回取って、この量でこの割合をかけると大体年間の割合が出てくるというかたちです。

○高島委員

年間でただこれだけではないはず。一斗缶年間50kgしか出ないというのはおかしい。

○事務局（富浜）

年間ではないです。これは割合を出すための割合です。あくまでも。年間の総搬入量にこの割合をかけて缶類の重量を出していくという作業を行ってほしいものです。年間の重量ではありません。搬入ごみ量ではありません。これはもやさないごみとして搬入される中の内、何%が缶類で何%が混入されている資源ごみかというものを調査するためのもので、これを出てきた割合を年間の搬入ごみ量もやさないごみ量にかけて缶類の年間の重量を出し計算しています。

○高島委員

これ搬入時に計量しますよね。計量して資源ごみと、埋設するごみが車と一緒に積んでくるわけさ。

○事務局（富浜）

もやさないごみだけ

○高島委員

もやさないごみはパッカー車の中に入れてその別に資源ごみ積んで搬入計量するんです。資源ごみは資源ごみで計量するんじゃないかと一緒に。その時に、1回で計量してそれから資源ごみを降ろして、中のもやさないごみをこぼしに行くと。こぼしてきた時に、まあ自分なんかはまた再度計量をして空の状態、で出て行くんだけどそれで資源ごみと埋め立てごみがどういう風に計算されているかということです。

○事務局（富浜）

通常5種分別されていますので、委託業者のもやさないごみの日というのがあります。もやさないごみの日で集めてきたパッカー車これの中をごみ質調査しているということですね。同じく

○事務局（砂川）

許可車ごと全部この広場にあけて、埋める物埋めない物全部広げてそれで仕分けしたんですよ。

○事務局（富浜）

事業系に関しましても別の許可業者さんの方をお願いしてもやさないごみ集めてもらって、その中をごみ質調査をしたということです。

○高島委員

だから、自分が分かりやすく言うのは、計量、一応全部積んで計量するさ。したあとに資源ごみを降ろして、再度計量してそれからもやせるごみを捨てて計量して帰るんだったら資源ごみともやさないごみは毎日量りで量っているから。

○事務局（富浜）

このごみ質調査をした会社の場合は、もやさないごみとして集めてもらった。今おっしゃっているのは資源ごみは、資源ごみとして集めて載せて、で、もやさないごみも載せて一緒に搬入してきて資源ごみは降ろして、もやさないごみはまた埋め立て処分の方に行っているというお話だと思うんですけど。

○前盛委員

事務局。このデータを取った時の状況を説明してくれば高島さんところこの試験データ取った時のと、どこの業者がどのように取りましたよと説明すれば理解できるはず。

○高島委員

自分なんかは現場で動いているから分かるんだけど、絶対分からないと思う。

○前盛委員

データ取った時には、だからデータ取った時の状況を説明すればこういう風に取りましたよと説明してもらえれば、皆さん理解してもらえらると思う。

○事務局（富浜）

2回に分けてごみ質調査を行いました。1回は委託家庭系ごみのごみ質調査ということで、もやさないごみの日に収集してきてもらったパッカー車を中のごみを降ろしてもらって、それをこのようなかたちの種類カゴに分けて調査をしております。また、許可業者についてなんですけど、こちらの方はまた搬入してきてもらって、それを埋め立て処分場、まあ通常もやさないごみですので、埋立処分場の中に入ります。そこにブルーシートを敷いて、そこに降ろしてもらって、その中をごみ質調査をしたということ。

- 高島委員
これは1度だけ。
- 事務局（富浜）
そうですね各一度だけ。
- 前盛委員
これ一台分ですか。
- 事務局（富浜）
一台分です。
- 高島委員
だから自分が分かりやすく言えば、計量を3度ぐらいすれば、もやさないごみと資源ごみというのは毎日量っているから、それでデータがすぐ出ると思うわけさ。1回の分別検査だけでは、データ出ないよ。
- 事務局（砂川）
あの、この状態資源ごみというのが入っていない状況の調査なんですよ。資源ごみは別に今言っている様に分けられているからアレはアレでいいんだけど、もやさない埋める予定のごみを調査したらプランタがこんだけよ、だけど混入しているびんとかがある。この量が青い所よという意味なんで、これが実際では埋められるわけ。だけど、今後はこの中から資源ごみとして缶カンは別に資源ごみでまわして埋めないようにしようねと出来ないかって話。それと、青い所のびん類とかを除いて、これを本来資源ごみだから、これを徹底して市民にお願いして分別して埋めないようにしていこうねというところ。この青い所の部分は、事務局がこれから取り組んで行く。この赤い所の缶カンの所を今後どんな缶カンを資源にさせていただくかというところ。
- 高島委員
搬入しているアレでしょ。下に。
- 事務局（砂川）
そう埋め立てている物。
- 高島委員
これでは計算が合わないという今僕が言っているのは、埋める埋め立てをやる時に資源ごみを積んでくるわけさ。
- 前盛委員
だからその説明をやれと。
- 事務局（富浜）
この調査をした時にはもう
- 前盛委員
資源ごみ混ざってないわけよな。
- 事務局（富浜）
混ざってないんです。資源ごみは混ざらなくて、もやさないごみとして集めてもらったものをそのまま埋め立て処分場に下りてきて、そこのブルーシートを広げてそこに降ろしてもらってごみ質調査した。もやさないごみとして許可業者に

- 高島委員
話は分かるよ。1台2台検査したのでしょ。自分なんかされてないさ。自分なんか毎日捨てている。自分なんかの計量されたのが入っていないってことだよじゃ。
- 前盛委員
だから調査した時の業者はどこだった。高島じゃなくって。
- 高島委員
だから衛生課の方から業者によ計量を再三するようにやったら、まだデータは出てくると思うよ。
- 事務局（慶田盛）
この調査はですね。どの業者のごみがどんな内容だったというのを調べるためでは当然ありません。一般論として家庭系から出てくるもやさないごみの中に、この内容を分析したら資源化できるのがどれくらいあるか、あるいは資源化できる缶類がどれだけあるかというものを把握するために実施したものでして、どの業者さんはこんな構成比だったといことではありません。したがって一台ずつのパッカー車の中身を全部ぶちまけて、その中を分類していったらこのようになりましたということで、調査のあり方としては、各業者を全部1台ずつやれば平均的な数字が出てくると思うんですが、今回の手法でも一台ずつである程度内容は把握できるという風に判断いたしました。ただし、家庭系でも缶類と資源出来る混入ごみ34%、事業系でも同じく約34%という数字が出ましたので、もやさないごみで出されている総量の内の約3分の1は、資源化出来るということが分かりましたという報告の内容です。
- 高島委員
ではこれは、重さではなくてごみの内容の説明わけね。
- 事務局（富浜）
内容です。重さじゃありません。割合ですね。内容です。
- 高島委員
だったら平均してこういうごみが混入されてる別のデータを出したわけよね。
- 事務局（富浜）
はい。
- 委員長
よろしいでしょうか。たしかに、月をかけてやれば細かいデータが出ると思うんですが、今回の目安としては缶類ですね、飲料缶以外の缶類をいかに資源化して行くかということが狙いだと思いますので内容お分かりになりましたでしょうか。
- 委員長
高島委員
- 高島委員
はい大丈夫です。
- 委員長
では、先ほど石垣委員から提案がありました、現場をどうしましょうかという提案ですがいかがいたしましょうか。お諮りいたします。

○事務局（富浜）

はい、委員長。第二回目の委員会にですね今ご提案のあった最終処分場の視察という形を入れたいなと思っています。皆さんの方でそれでよろしければですね日程調整の方は、また委員長と事務局の方でつめてよろしいですか。

○委員長

皆さんどうですか。それでよろしいでしょうか。今事務局から提案があったんですが。

○事務局（慶田盛）

やっぱり現場をご覧になった方がイメージ出るかと思います。

○宮城委員

飲み物缶ねアルミとスチールに分かれてるんですけど缶類資源化について今どんな状況ですか。

○委員長

先ほどグラフにも出ておりましたが、ほとんどがスチール缶とアルミ缶ですよ。あとスプレー缶の中身も大体これもスチールかアルミに入ってくる。

○宮城委員

もえないごみの中からスチール缶とアルミ缶を（聞き取り不明）

○委員長

はいそうです。

○前野委員

昨年私もストックヤードの方も見せていただいたんですけど、実際家庭でもお菓子の大きな空き缶とか蚊取り線香の缶とかこれをそのまま埋めるのはもったいないなという実感はありました。で、昨年ストックヤードの方見せていただいた時にすごい実感としてね感じました。この最終処分場の下の構造とか流れてくる水とか発泡スチロールのこんな塊になってるのとか本当に初めて見せてもらってすごい勉強になりましたので、現場の見学というのはとっても大切だと思います。よろしくお願いします。

○委員長

ただ今、現場視察の重要性を言っていただきました。他にございますでしょうか。

○事務局（富浜）

日程については最後に委員会のスケジュールがありますので、その時にまた審議したいなと思います。

○高島委員

日程だけど、区域によって違う。もやさないごみ回収するの。

○前盛委員

一日平均してます。

○高島委員

もえないに回収する時が最終処分場多く使うさね。その時に見学させた方がいいと思う。

○事務局（富浜）

はい。はい。

○事務局（慶田盛）

そうですね。

○高島委員

稼働してない時より稼働してる時に。

○事務局（砂川）

今考えているのは、パッカー車で運んでもやさないごみ運んで来て、それをこぼしたところをビニール袋入ってからパーと破って、どんな状態だよっていうのを見ていただこうかなと、そうした方が分かりやすいから。

○石垣委員

決定、賛成でしょうか。

○前盛委員

議長もアレですよ。中身を調べるとなるとですね、パッカーからこぼして全部袋破ってこの袋の中身を全部ばらさないと、どういうものが混入してますよという風にこのデータを取る時も多分大変だったと思いますよ。ですから、かえって事務局の方に写真でもいいからどんな物がもやさないごみで入ってますよ缶類が入ってますよこういう風に現場でも中身を見ないと分からないわけですよ。

○石垣委員

この辺についてね、おっしゃるようにですね写真でも結構だと思います。ただ私が要望してるのは、まず現地で現地でですねこの埋立地の状態がどうなってるかということが第1の問題というわけで、第2の問題はですね、やはりおっしゃるような事務局の方で私は結構だと思います。そういう方法で写真なら写真で構いませんしあるいは現場にちょうど合うことがあればそれを見せてもらうのもこの結果はいちいち時間をかけて見るということではありません。その状態はですね事務局におまかせいたします。それから日程についてもですね、どうかこの日程は議会等の問題もあるでしょうし、その日程は事務局の方でですね設定してもらって、のちほど教えていただければ結構だと思います。以上です。

○鹿川委員

資源ごみなんですけども缶類を資源化する時に、袋などに入れていますよね。資源ごみ。これを袋じゃなくてカゴとかに入れたらどんなでしょうかね。その袋もあの浦添などはそのようにやっているんですよ。カゴに入れて家庭からこのカゴの中に入れて置いてそして出す。みたいな感じで結局みな洗われてるわけですよ。洗ってカゴの中に入れて出す。そのようにやれば袋のかさ張りも少なくていいんじゃないかなと思うんですけど。その様な検討などもなさってらっしゃいますでしょうかね。

○高島委員

ちょっと難しい。

○鹿川委員

回収業者が大変ですかね。

○委員長

鹿川委員、今のお話はですね具体的にいつからどうしようという時に、たとえば出す時にねごみを出す時に役所の方でどういう形にしますかと、もちろんこれはこの委員会に諮るかもしれませんが、今日はそこまでいなくてですね、出し方までいなくて、そういう形で方向性を作りましょうという話で今日はよろしいんじゃないですかと思いますが。

○事務局（富浜）

事務局としてもですね第2回目以降にですね、今回皆様の中で出されたどういう缶類を資源化の方に向けるか、またその缶類をどのようにして出してもらおうかというところ、本格的なそういう話はですね、また2回目以降に審議していただきたいなという風に考えておりますのでよろしくお願いします。

○委員長

他に何かございますか。

○前盛委員

だから、資料を1つで見てどういうものが混入しているよというのを委員が分かるような資料作ってもらったその分すぐ分かりやすい次からの委員会のあたりで。

○事務局（富浜）

ぜひですね資料の方、まあ写真も撮っておりますので、次回現地視察の際にも写真資料としても配布しながらですね最終処分場の方を皆さんに見ていただきたいなと思っております。

○崎山委員（代理）

すみません、崎山です。あと何回ぐらいの会議の計画で、それから方向性としてどういった方にもって意見を出してもらいたいっていうのかを見通しを、つまり次は9月とあるんですがあと何回会議があるか、そのあたりの見通しをちょっとお願いします。

○事務局（富浜）

今のご質問の方もですね次の審議第1号の方で委員会のスケジュールというところで説明する予定であります。今回視察現最終処分場を視察したいという声もありましたので追加して、合計ですねトータル的に4回ほどになる、最後審議第1号の方でまたご説明したいと思います。

○委員長

ただ今の方でよろしいでしょうか。

（異議なし）

○委員長

続きまして、審議第1号委員会スケジュールをですね事務局の方から報告お願いいたします。

○事務局（富浜）

ではお配りしてあります資料の一番最後ですね。一番最後の方に委員会スケジュール案を載せておりますのでご覧ください。
今後の委員会日程については、本日の第1回委員会の後にですね予定としては9月中旬に第2回委員会を開催し、缶類資源化素案について審議していただく予定です。ただ、議会等もありますので委員長とも相談をしながら第2回目を開催していきたいと考えております。9月下旬より市民意見交換会及びパブリックコメントを実施

○事務局（富浜）

する予定です。市民意見交換会等から提案があった意見等については11月下旬にですね第3回委員会を開催し審議していただく予定です。事務局としては平成26年4月実施に向けて作業をすすめて行きたいと考えております。本日でました現地視察、最終処分場の視察の方も委員長とですね相談しながら日程決まりましたらまた皆さんにご通知したいなと考えております。以上です。

○委員長

ではそうすると本委員会はあと2回3回ぐらいでですね最終的には終了しようかなと思うんですがよろしいでしょうか。

○事務局（慶田盛）

すみません補足をいたします。ただいまの委員会スケジュールですが、担当からあと3回とかというところございましたけれども基本的な考えかたとしては、26年度にこの缶類資源化をスタートするかしないかその方向性を次回の会合で確認いただければと考えております。混入資源ごみの方の普及啓発については、これは当然、役所側の事務局側の業務でありますので、それは地域懇談会を開きながら市民の皆さんに普及啓発活動を行きたいという風に考えておりますが、この委員会では、次回の会合で現地をまず見ていただく、それから混入ごみの状況について見ていただく。で、26年度からこの缶類資源化をやるかやらないのかという方針を次回で示していただきたいという風に考えております。したがって、委員会はあと3回ということではなくて次回で方向性を決めていただきたいという風に考えております。

○委員長

委員の皆さん何か意見ございますでしょうか。次回で方向性を出してくださいということで、現場確認しながらですねそのごみ質状況を見ながら行けばこの必要性が出てこようかなという感じがいたします。

○事務局（慶田盛）

もちろん当然次回会合をしまして、現場も見て、この様な状況であると共通認識にたっただいたうえで、いやどうしてもあと1回必要だという風に議論になりますならば、また再度これは当然委員長とも相談をしてさせていただきます。基本的にはあと1回という考えです。

○委員長

だいたい意見が出終わったようでございますので、このあたりでよろしいでしょうか。2回目にあっては事務局と私の方で調整をしましてですね、皆さんにまたご連絡申し上げたいと思います。

○宮城委員

缶類資源化した場合受入れしてくれるところは。

○委員長

そのあたりもそのあたりはぜひ、市民とのですね話し合いとかそういった中でのずと出てくる問題だと思います。

○事務局（富浜）

引き取り業者の話だと思うんですけど、そこらへんの資料についても次回資料として皆さんにお配りしたいなと思っています。

○前盛委員

これが資源化、再資源化するとなると回収業者が大変困る、仕事が大変増えるんです。結局パッカーにかましたものをかまさないようにして資源ごみだよとして別収集しないと。パッカーにかますということは、一番効率がいいんですよ。資源ごみするということは、その分人手が入るし、これはもう缶類ですからプレスも出来ない。容積が回数が増える。一斗缶かんなどもやっぱしなるとですねそういう面もあります。

○事務局（富浜）

具体的な種類また引取り業者等、どのような出し方をするかという点についてまた次回資料皆さんにお配りしながら話をしていきたいなと審議していきたいなと思っていますのでよろしくお願いします。

○事務局（慶田盛）

すみません、あと1点だけ補足訂正申し上げます。委員会の回数ですが、第2回目で方針決めていただきたいということを申し上げました先ほど。そのあとに、パブリックコメントとを実施するパブリックコメントと市民意見交換会を実施しますので、その中で出てきた意見をさらに方針に反映させる必要がございます。したがって11月の下旬に3回目の委員会を開きまして、そこで最終的に確認をいただいたのちに市長に報告し12月議会に関係条例の制定等を準備したいという風に考えます。申し訳ございません訂正させていただきます。

○前盛委員

2回3回でこれ回答出せと言ったら、これ大変なる。12月定例会でこれもう出さんといかなかったら。

○委員長

ぜひですね、今我々に与えられた課題というのは、この埋立地ですね、存命をどうするかという1日でも長く継続するための検討委員会だと思いますので、ごみの種類や出し方等色々あるものはですね、市民会議の中で補足が出てこようかと思っています。

○宮城委員

これは離島からも運ばれてくるんですか。

○事務局（富浜）

石垣市です。

○事務局（砂川）

石垣市の物です。

○委員長

はい、他に。

○高島委員

次でいいんじゃないもう。

○委員長

いいですね。はい。お疲れさんでございました。以上をもちましての審議は終わりたいと思います。事務局の方にマイクお渡しいたします。